

沖縄 慰霊の日



写真は加工して掲載しています

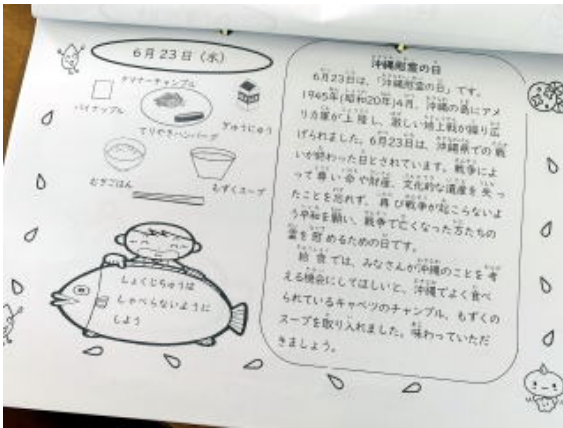
5年生の教室の前を通ると、子どもたちが真剣なまなざしで大型モニターを見つめている姿がありました。こんなにきれいな海が広がる沖縄に悲しく、つらい過去があったなんて・・・。



『国と国との戦争で犠牲になるのは、いつも尊いいのち。いのちが奪われるのは、兵隊さんだけではない。幼い子どものいのちまで。捕まれば殺される。降伏することは許されない。そう教え込まれてきた人々は、自らのいのちを絶つことを選ぶしか他に方法はなかった。・・・』

明日6月23日は、戦争が終わって76年目の沖縄慰霊の日です。悲しい過去を二度と繰り返さないためにも、私たちは毎年巡ってくる節目の日（メモリアルデー）を大切に平

和について考え合いたいものです。平和のことをはじめとするさまざまな人権課題について学ぶたびに、単に知識が増えるだけでなく人は必ず少しずつ優しくなることができます。



ちなみに檜原市の明日の給食は沖縄慰霊の日にちなんで、キャベツのチャンプル・もずくスープ・パイナップル等です。

沖縄に思いを馳せてくれるといいですね。

「慰霊の日」の沖縄全戦没者追悼式では、宮古島市立西辺中学校2年の上原美春さんが平和の詩として「みるく世（ゆ）の謳（うた）」を朗読されます。明日はちょっと意識をしながらニュース等を見ることも大切なことですよね。

以下「みるく世（ゆ）の謳（うた）」の全文を掲載いたします。



みるく世（ゆ）の謳（うた）

宮古島市立西辺中学校二年 上原 美春

12歳

初めて命の芽吹きを見た。

生まれたばかりの姪は

小さな胸を上下させ

手足を一生懸命に動かし

瞳に湖を閉じ込めて

「おなかすいたよ」

「オムツを替えて」と

力一杯、声の限りに訴える

大きな泣き声をそっと抱き寄せられる今日は、

平和だと思う。

赤ちゃんの泣き声を

愛おしく思える今日は

穏やかであると思う。

その可愛らしい重みを胸に抱き、

6月の蒼天を仰いだ時

一面の青を分断するセスナにのって

私の思いは

76年の時を超えていく

この空はきっと覚えている

母の子守唄が空襲警報に消された出来事を

灯されたばかりの命が消されていく瞬間を

吹き抜けるこの風は覚えている

うちな一ぐちを取り上げられた沖縄を

自らに混じった鉄の匂いを

踏みしめるこの土は覚えている

まだ幼さの残る手に、銃を握らされた少年がいた事を

おかえりを聞くことなく散った父の最後の叫びを

私は知っている

礎を撫でる皺の手が

何度も拭ってきた涙

あなたは知っている

あれは現実だったこと

煌びやかなサンゴ礁の底に

深く沈められつつある

悲しみが存在することを

凜と立つガジュマルが言う

忘れるな、本当にあったのだ

暗くしめった壕の中が

憎しみで満たされた日が

本当にあったのだ

漆黒の空

屍を避けて逃げた日が

本当にあったのだ

血色の海

いくつもの生きるべき命の

大きな鼓動が

岩を打つ波にかき消され

万歳と投げ打たれた日が

本当にあったのだと

6月を彩る月桃が揺蕩（たゆた）う

忘れないで、犠牲になっていい命など

あって良かったはずがない事を

忘れないで、壊すのは、簡単だという事を

もろく、危うく、だからこそ守るべき

この暮らしを忘れないで

誰もが平和を祈っていた事を

どうか忘れないで

生きることの喜び

あなたは生かされているのよと

いま摩文仁の丘に立ち

私は歌いたい

澄んだ酸素を肺いっぱいにとりこみ

今日生きている喜びを震える声帯に感じて

決意の声高らかに

みるく世ぬなうらば世や直れ

平和な世界は私たちがつくるのだ

共に立つあなたに

感じて欲しい

滾（たぎ）る血潮に流れる先人の想い

共に立つあなたと

歌いたい

蒼穹（そうきゅう）へ響く癒しの歌

そよぐ島風にのせて

歌いたい

平和な未来へ届く魂の歌

私たちは忘れないこと

あの日の出来事を伝え続けること

繰り返さないこと

命の限り生きること

決意の歌を

歌いたい

いま摩文仁の丘に立ち

あの真太陽まで届けと祈る

みるく世ぬなうらば世や直れ

平和な世がやってくる

この世はきっと良くなっていくと

繋がれ続けてきたバトン

素晴らしい未来へと

信じ手渡されたバトン

生きとし生けるすべての尊い命のバトン

今、私たちの中にある

暗黒の過去を溶かすことなく

あの過ちに再び身を投じることなく

繋ぎ続けたい

みるく世を創るのはここにいるわたし達だ
